

下の表はステロイドが様々な組織に及ぼす副作用について、まとめたものです。

最後の行の免疫系に対する副作用として、「免疫反応の抑制」と書いてあります。“副作用とは、医薬品の使用に伴って生じた治療目的に沿わない作用、好ましくないできごと全般を指す。”とされています。皆さんは、この好ましくない出来事を起こすために、世界中でステロイドが用いられているのは、ご存じでしょう。治療というのは本来、病気を治すために行われるものであるのに、これでは治療と称して病気作りを行っていると思いませんか？

にもかかわらず、ステロイドを使う医者から「ステロイドの副作用を利用して治療している」と説明を受けた人がいますか？なぜステロイドの免疫を抑制する作用を、最高の作用として説明しないのでしょうか？これも現代医学がめっちゃくちゃな医療である証拠の一つなのです。アッハッハ！

系統	副作用の内容	推定される発症機序
目	緑内障 白内障 (cataracta subcapsularis posterior)	眼圧の上昇 水晶体繊維の凝固・壊死
皮膚	創傷・術症の治癒遅延、皮下出血 皮下組織萎縮、皮膚菲薄化 皮膚線条 ニキビ、多毛	繊維芽細胞の増殖抑制 膠原繊維の合成阻害 肉芽の退縮 軽度のアントロゲン様作用
筋	ミオパチー 筋萎縮	白筋における糖新生の障害 蛋白異化、低K
骨格	骨粗鬆症 脊椎圧迫骨折 無菌性（虚血性）骨壊死 ：特に大腿骨頭壊死	蛋白異化、骨Caの吸収促進 負のCa平衡 骨端部血管内の脂肪塞栓 血行途絶
消化器系	消化性潰瘍 ：特に胃潰瘍、消化管粘膜出血、腸穿孔 脂肪肝、急性膵炎	塩酸分泌促進、粘液分泌低下 血行障害、抗肉芽 プロスタグランシン合成抑制 脂肪沈着、脂肪塞栓、血行障害
中枢神経系	精神障害 (鬱状態→自殺企図、躁状態、分裂病様) 多幸福感、異常食欲亢進(→肥満)不眠、 脳圧亢進、偽脳腫瘍症状 けいれん、てんかん様症状	神経伝達物質への影響 シナプスの神経伝達潜伏時間の延長 脳圧の亢進 脳内の水・電解質代謝異常
循環系	高血圧、Na・水貯留(→浮腫) 低カリウム血症	軽度の鉱質ステロイド様作用

代謝系	ステロイド糖尿、潜在性糖尿病の顕在化 真性糖尿病の増悪 ケトアシドーシスの誘発 非ケトーシス・高浸透圧性昏睡の誘発 高脂血症（コレステロール、TG増加）	肝における糖新生の促進 抗インスリン作用 食欲増進効果 四肢皮下脂肪の脂肪分解 躯幹・内臓への動員
内分泌系	成長抑制（小児）、月経異常・続発性無月経 間脳・下垂体・副腎系の抑制 （→医原性腎不全、副腎クリーゼ、 ステロイド離脱症候群の発症）	間脳・下垂体抑制作用 （ACTH、GH、TSH、 ゴナドトロピンなどの分泌抑制） 副腎への直接の抑制作用
血管系	血栓促成、血栓性静脈炎 塞栓、梗塞	凝固因子の増加、抗プラスミン作用 血管壁の変化
血液系	白血球（特に好中球）増加 好酸球・リンパ球の減少	好中球の生成、骨髄からの動員の促進 リンパ球生成抑制
免疫系	免疫反応の抑制 遅延型アレルギー反応の減退 各種感染症の誘発・増悪 （化膿菌、結核菌、真菌、ウイルス、原虫など）	リンパ球・単球の減少、抗体産生の抑制 抗原抗体反応の抑制 白血球・マクロファージの遊走抑制 その他